

東日本大震災津波被災地における 農業復興過程に関する現状と課題 ＜福島県＞

農林水産政策研究所
小野智昭

ヤマト財団による大型
機械（岩子ファーム）



相馬市の位置



資料：農林水産省HP「わがマチ・わがムラ」の福島県地図に加筆.

相馬市の特徴

- 農地3,900haのうち1,300ha（33%）が津波被災。
- 2016年に約1,100ha（転用除く）のうち93%が復旧。
- 津波被害が大きい飯豊、磯部、日立木村に法人設立。
- 飯豊地区では、民間資金で2012年6月に大豆農業機械を市からリース。
 - ヤマト福祉財団の「東日本大震災生活・産業基盤復興再生募金」「農地復旧復興（純国産大豆）プロジェクト」



相馬市の浸水範囲

資料：国土地理院「10万分1浸水範囲概況図」
 (<http://www.gsi.go.jp/kikaku/kikaku60003.html>)に加筆。

(単位：ha, %)

地域	属地面積	災害復旧面積	被災率
大野	735	41	5.5
中村	341	146	42.9
日立木村	501	193	38.5
飯豊	735	434	59.1
磯部	474	285	60.1
計	2,786	1,099	39.5

資料：属地面積は2010年農業センサス地域調査，災害復旧面積は相馬市資料を集計。

(農) グリーンファーム磯部 (磯部地域)

- 磯部地域は4集落で構成。
 - 農地面積228ha (水田202ha)。ほ場は30a区画。
 - 総農家数74戸, **5ha以上14戸**
 - 10ha以上農家3戸で、農地流動化が進展。
- 低地水田191haが被災し、ほとんどの農家が機械・施設を流出。
- 2015年から本格的な営農開始。
- 2015年4月に**6人**で農事組合法人グリーンファーム磯部を設立。
 - 中型の水稲機械を装備 (補助率82.5%)。
 - 水稲単作経営で生産調整は飼料米を湛水直播で生産。
- 低地の農家は全て離農し、今後、農地復旧に伴い法人が規模拡大する。
- 水田約200ha中、ソーラー70ha、入作を除き、約100haに拡大する計画。



磯部地域の位置

資料：2005年農業センサス地図に加筆。

(農) グリーンファーム磯部の経営概要

		単位	2015年	2016年
経営面積		ha	26	66
作付内容	水稲	ha	26	66
	うち直播栽培	ha	5	20
	飼料用米	ha	7	26
大豆		ha	-	-
労働力	役員/構成員	人	6	6
	常時雇用	人	-	-
	パート	人	-	5

資料：聞き取り調査による。

(合) 飯豊ファーム (新田・程田集落)

- 新田 (にいだ) 集落と程田 (ほどた) 集落
 - 農地面積：290ha (新田216ha, 程田74ha)、水田：266ha (新田208ha, 程田58ha)
 - 総農家数：87戸 (新田44戸, 程田43戸)、**10ha以上農家：5戸** (新田4戸, 程田1戸)。新田集落に大規模農家が多い。
- 津波で196ha (新田136ha, 程田60ha) 68%が被災。
- 認定農業者**4人** (新田3人, 程田1人) で合同会社飯豊ファームを設立, **ヤマト財団事業**で大豆機械導入 (2014年から3人)。
 - 集落の転作大豆**に加え、2014年から**主食用米, 小麦**, 2015年から**飼料用米**を作付。水稲用機械は構成員の機械を借り上げ。水稲は直播中心。2013年から**野菜 (ブロッコリ)** 導入。
 - 月給制の雇用者**を2013年から2人、2015年から4人。
 - 2014年に農業生産法人。
- 2集落の転作を引き受け、新田集落の水稲は法人へ、しかし程田集落の水稲は**集落営農**を新設する方向。



新田・程田集落の位置
資料：2005年農業センサス地図に加筆。

(合) 飯豊ファームの経営概要

		単位	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年
経営面積		ha	11.8	42.6	63.1	72.4	78
作付内容	水稲	ha	-	-	4.8	5.5	14
	うち乾田直播	ha	-	-	2.5	4.0	7.9
	湛水直播	-	-	1.8	1.2	5.7	
	飼料用米	ha	-	-	-	1.5	1.5
大豆		ha	11.8	42.6	44.7	62.8	55
小麦		ha	-	-	13.6	4.1	9
労働力	役員/構成員	人	4	3	3	3	3
	常時雇用	人	-	2	2	4	4
	パート	人	-	-	-	-	-

資料：聞き取り調査による。

合同会社岩子ファーム（岩子集落）

- 飯豊地域：ほ場は60a区画（50m×120m）。地域内7集落中，沿岸5集落が津波被災。
- 岩子集落
 - 農地面積154ha（水田150ha）、総農家数56戸
 - 5ha以上5戸、10ha以上が1戸。
- 集落営農
 - ブロックローテーションで生産調整を実施。
 - 集落組織の岩子生産組合（構成員104戸）が約40haの大豆作業を受託。
 - 2007年に耕作農家46人で任意組織・岩子ファームを設立。
- 農地の2/3（99ha）が津波被災。
- 農家4人（60歳代）で合同会社岩子ファーム新設
 ヤマト財団事業で大豆機械を導入。
 集落の転作大豆を法人が作付。
- 水稲作付面積約70haのほとんどを構成員2人が受けている。
- 法人が稲作を行うかどうか未定。



岩子集落の位置
 資料：2005年農業センサス地図に加筆。

(合) 岩子ファームの経営概要

		単位	2013年	2014年	2015年	2016年
経営面積		ha	1.7	8.6	31.7	45
作付内容	水稲	ha	-	-	-	-
	大豆	ha	1.7	8.6	31.7	45
労働力	役員/構成員	人	4	4	4	4
	常時雇用	人	-	-	-	-
	パート	人	-	-	16	20

資料：聞き取り調査による。

(合) アグリフード飯渕 (飯渕集落)

- 飯渕集落
 - 農地面積55ha（水田47ha）、総農家数が20戸
 - 10ha以上農家はなく、野菜の専業農家が多い。
- 集落営農
 - ブロックローテーションで小麦を作付け。
 - 2006年に南飯渕営農組合を設立し、播種作業は組合、耕起・収穫は各農家が実施。
- 津波で26haが被災、耕作農家13戸中、6戸が農地被災、4戸が機械に被害。
- 農地被災の6戸で法人設立し、ヤマト財団事業で大豆機械をリース。
 - 構成員の農地24haの半分で大豆を作付け。水稲は各自で作付け。
 - 集落内の非被災農地では飼料米で転作。
 - 構成員の1戸は、12haから18ha（大豆含む）へ
- 規模拡大集落内は野菜作が多く自作志向が強いが、離農者の農地の受け手になるのではないか？



南飯渕集落の位置
資料：2005年農業センサス地図に加筆。

(合) アグリフード飯渕の経営概要

		単位	2013年	2014年	2015年	2016年
経営面積		ha	10.3	10.0	11.7	14.8
作付内容	水稲	ha	-	-	-	-
	大豆	ha	10.3	10.0	11.7	14.8
労働力	役員/構成員	人	6	6	6	6
	常時雇用	人	-	-	-	-
	パート	人	4	4	4	4

資料：聞き取り調査による。